いつでも市民と共に

民報 あばしり
NO.1212
2019.3.31
発行所
日本共産党
網走市委員会
網走市北八西三
TEL 四三一 四四五八
FAX 四三一 四四五七

三月議会では…

三月五日「消費税10％への引き上げ断念を求める陳情」が、全日本年金者組合網走支部からあり、総務経済委員会で審議されました。

この委員会には共産党の松浦議員も所属していますが、市民の暮らしに直結する問題であり、当然採択されるものと考えていました。

しかし、公明・志誠会・無所属の三委員が継続審議を主張し（事実上の廃案）、採択されませんでした。

「社会保障費が増えている」「福祉に必要」などの理由でした

市民の暮らしはどうでも、国の政策には逆らわない、意見を言わないのでは、地方議会の役割を果たしていると言えるでしょうか。

松浦議員は、市民の暮らしを基本に考え、昨年十二月議会でも、今回と同趣旨の意見書を提出していましたが、今回と同様に公明・志誠会の議員の反対で不採択となっていました。

網走市議会には、市民や団体からの請願や陳情に対し「国の政策だから」と反対する議員が多いのは残念なことです。

日本共産党の議員は、国の政策であっても、言うべきは言い「市民の暮らしの防波堤」となるべく奮闘しています。

へき地保育所の「横領問題」について

マスコミでも話題になった犯罪にかかわって

松浦議員は「へき地保育所は、公設・民営で設置者は網走市です。そして市税のみならず国・道からの税金も入っている。市は当事者ですから、運営委員会が告訴しなくても告訴すべき事件ではないのか。二度と繰り返さないためにも徹底した原因究明をし、保育士の待遇なども含めて、運営の透明化や改善が、他の施設でも重要」と指摘し、市長も改善していく旨の答弁をしました。

この横領事件は刑事告訴をしないことになっていますが、「市民の税金を横領しておいて制裁を受けないのはおかしい」「関係者の社会的・道義的責任はあるはずだ」と指摘する市民が多いのは当然ではないでしょうか。

松浦さとし奮戦メモ！

近頃の天気は、暖かい日が続いたと思ったら急に冬に逆戻りしたような天気になって体調の管理がむずかしいです。先週の日曜日は、「朝からやたらと鼻水が出てくしゃみが出る」これは、事務所ではやり始めている風邪にやられたなと感じながらも後援会員への訪問活動があるので、あまり気にせずにやっていました。ところが夕方の訪問活動をしていると、また、鼻水が出はじめたのでティッシュで鼻水を拭きながら終わらせました。これは、早く治さなければと少し早めに帰宅して、葛根湯を飲んでパワーアップさせるため、自家製のホルモン鍋を作って赤ワインを飲んで寝ました。その効果があったのか翌日から回復してきて水曜日には、ほぼ回復しました。もともと風邪には強い（鈍い）ほうで、熱が出たことがなく、食欲も落ちたことがありません。これから市議選へ向けてラストスパートですが、風邪を吹き飛ばして全力で勝利に向けて頑張ります。

村ちゃんが駆ける

安倍首相は憲法に自衛隊を明記して、違憲論争を終わらせると言う。しかし本音は自衛隊が海外の戦争に参加できるようにしたいのだろう。自衛隊は専守防衛、災害救助など国民を守るのが仕事である。日本の憲法は私が生まれる前からあるが、今の憲法で何一つ困ったことはないし、平和憲法だからこそ、自衛隊員が殺し殺されることもなかった。元自衛隊幹部も言うように海外で戦争するためのステルス戦闘機などもってのほかである。憲法を変える必要はないし、憲法が生かされる世の中にしていきたい。

先日、高校時代に好きだった人が応援してると伝言があり、びっくりした。今、市議に挑戦することになったのも、あの時の出会いが始まりなのかと思った。思い上がりかもしれないが、網走市民との出会いも今の自分を作ってくれているのだなと思う。気を引き締めて頑張ります。

流氷

税金の自主申告が終わりました。高齢化して大変でしたが、増税中止の怒りも込めて、仲間増やしにも努力してきました。

この時期、忘れられないのは東日本大震災と福島原発事故です。重税反対行動の最中で気がつかない状況のもと、改めて見た惨状にあぜんとしました。津波で人、家、車が流される様子や、原発の映像を見て、地震と放射能汚染の怖さを再認識しました。被災地はまだまだ復興途上です。政府は復興支援に財源を投入すべきです。

安倍政権は公文書の改ざんや隠ぺい、統計資料の書き替えなど、憲法が定めた国民主権をないがしろにしています。こんなひどい内閣は、一刻も早く退陣させるしかない!!

ここ北海道でも中央直結政治を終わられるために幅広い努力を終結し、奮闘しましょう!!生活と健康を守る会も要求実現と組織づくり、そして選挙勝利に全力をあげます。

北見生活と健康を守る会
副会長　神田　優